

研究分野のキーワード：自然言語処理，文理解，推敲支援，レポートライティング，読点

## 研究紹介

私の現在の主な研究テーマは、読みやすい文を作成するために必要な推敲を支援することです。特に、最近では、文中に読点を適切に打つことを支援するための方法について、いろいろと考えています。

読みやすい文を完成させるには、文中に含まれる文節間の係り受け関係を読み手に正しく一義的に伝えることに配慮した推敲が欠かせません。しかし、係り受け関係を明示的に示す役割を本来は担っているはずの読点を推敲時に有効に活用するための方法が十分には確立していないのが現状です。

そこで、私は、

- 1) 読点の打たれ方を評価するための新しい基準の作成
- 2) その基準に則った推敲手続きのルール化
- 3) そのルール化された手続きをコンピュータ上で動かすことによる推敲支援システムの試作
- 4) その推敲支援システムの出来栄の確認

という一連の流れで研究を行なっています。

今までに、次のようなことがわかってきました。

### 1) 読点を打つ順序の影響

係り受け構造上、階層的に上流に位置する接点から下流方向に向かって、順に読点を打ち進める行動を取る推敲者において、適切な読点が産出されやすい。

### 2) 読点を打つ順序を制御することの影響

推敲者の打点行動を制御し、階層的な下流方向に向かって、順に読点を打ち進める行動を取らせることによって、適切な読点をより多く産出させることができる。

### 3) 打点における「残留接点」（上流の接点の“取りこぼし”）の影響

上記1) および2) で観察された読点配置の適切性の向上は、係り受け構造上、上流にある接点に対して、取りこぼすことなく読点を打つことができるというメリットに起因するらしい。

このような研究を踏まえて、今は、「残留接点」（係り受け構造上、自身よりも下流に位置する接点には読点が打たれているにもかかわらず、自身には読点が打たれていない接点）の存在が文の曖昧性に及ぼす悪影響について調べています。

「残留接点」という新たな視点を取り入れることによって、人が書いた文の中で「残留接点」が検出されたら、その文節間に対して読点を追加する、あるいは、「残留接点」の発生源となっている大本の読点を探し出して削除する、というように、推敲手続きを明確なルールとして記述することが可能となり、コンピュータ上で動作する推敲支援システムに応用することが容易になると考えています。